

# 芝生の運動場ができるまで

## 蒔き芝編



(6月上旬施工・中旬養生開始・9月上旬供用開始)

### 概要

- ・ほぐした芝の茎を蒔きます。

### 特徴

- ・根が十分に土の中に伸び、耐久性が高まるといわれています。
- ・異なる種類の芝生を混合することができ、1種類に病害が生じても全滅を防ぐことができます。

## 張芝編



(6月上旬施工・中旬養生開始・9月上旬供用開始)

### 概要

- ・30 cm四方の張芝を運動場に敷き並べます。

### 特徴

- ・目地がほとんどできず雑草が生えにくく、見た目に美しい運動場が施工後すぐできあがります。
- (ただし、蒔き芝と同様根付くまで養生が必要)

## ポット苗編



(5月上旬ポット苗づくり・6月中旬運動場移植・7月上旬養生開始・9月上旬供用開始)

### 概要

- ・ポットに芝の苗をつくり、移植します。

### 特徴

- ・苗を自分達で作るため、蒔き芝・張り芝施工の約2分の1の費用で実施することができます。
- ・移植まではポットで育てるので、面積がせまく管理が楽です。
- ・養生期間を短くすることができます。

## ① ポット苗づくり(5月上旬)



芝をほぐして、芝苗をひとつひとつポットに植えます。

(5月上旬～6月下旬)



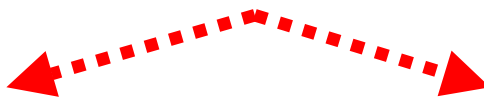
定期的に水やりをし、苗を育成します  
十分に育成次第移植します。

## ① 床土整備 (6月上旬)



運動場を深さ 10 cm まで掘り起こし、スラグ〈注〉を混ぜて、運動場に埋め戻して敷き均し、その際、砂利は撤去します。土壌改良資材（イソライトCG）と、有機堆肥（タテヤマユーク、フミライプA）とを混合して撒き、敷き均し転圧し、散水します。

〈注〉スラグとは、下水処理場から出る汚泥を高温（1,300 度）で溶かしたものを急冷して作る粒状のもので、土壌の通気性を高める効果があります。



## ② 芝植え (6月上旬)



芝生のほぐし体験を行います。2種類の芝の苗を、順番に細かく振るい落とすようにして、まんべんなく運動場に蒔きます。

## ② 芝植え (6月上旬)



約 30 cm 四方の張り芝を、運動場に敷き詰めていきます。



芝生の伸び幅を見込んで、2～3 cm 隙間を空けて貼る工法の場合は、目地の間に目土を入れます。

その後、業者が 4 輪車で砂を散布します。目砂散布後、転圧し、水やりをして養生に入ります。



## ①-1 床土整備

(6月中旬~下旬)



蒔き芝・張り芝施工と同様の床土整備をします。



## ② 運動場への移植

(6月中旬~下旬)



ポットからひとつずつ苗を抜いて、運動場に等間隔に置いていきます。

土を移植ごとで掘り起こし苗の根を根付けます。

6  
月  
  
7  
月  
  
8  
月  
  
9  
月

③ 養生（6月中旬～8月下旬）



3週間は水浸しの状態にします。

ホースに一定の間隔で孔をあけたものを等間隔に並べて、水道栓につないで定期的に散水します。

供用開始日まで立ち入り禁止とします。

③ 養生（6月中旬～8月下旬）



スプリンクラーで定期的に散水を行います。

供用開始日まで立ち入り禁止とします。



植えつけた後は、足でしっかり踏みつけ、水やりをして養生に入ります。



③ 養生（7月上旬～8月下旬）



④ 供用開始（9月上旬）

セレッソ大阪のコーチ陣によるサッカースクールを楽しむ子ども達。



芝生の上で寝転ぶ子ども達。



## ⑤ オーバーシード

(10月上旬～下旬)

- ・ノシバやティフトンなどの夏芝が冬になると休眠期に入り、黄色がかった色になってしまうため、冬芝の種をまき、青々とした芝生にします。
- ・このように2層構造にすることで、夏芝の保護にもなります。

10月中旬

冬芝の苗がそろってきます。

